

未来を考える「じぶん未来講演」と  
『じぶん未来BOOK』の授業で  
進路指導室への訪問者が増加

スクールデータ

生徒数 / 995人  
(男子377人・女子618人)  
看護科8学級、普通科13学級、  
専攻科2学級  
進路状況(2011年度) /  
大学・短大進学42.1%、  
専各進学33.2%、就職15.0%、  
その他9.7%

高知県高知市大津2-324-1  
電話 / 088-866-3166  
http://www.kochi-chuo.ed.jp/

「楽しい学校」を信条とする高知中央高校では、一人ひとりの長所や強みを伸ばす教育を心がけている。「生徒にはのびのびと好きなことに取り組んでほしい」と語る、理事長の近森正久氏。

4年前には近森理事長の発案で週6時間の「チャレンジ講座」を開講した。1学年はこの時間を基礎科目の学び直しにあて、2・3学年はスイーツ、エスナなどの講座から好きなものを選んで学ぶ。多彩な経験を通じて個性を伸ばし、適性に気づく機会となっている。

職種の多さや、「進路決定の2つのルート」の話に心が動く

「じぶん未来BOOK」を使って、仕事の多様さや勤労観を学ぶ授業は、以前から普通科の1学年全員を対象に行ってきた。しかしクラスによって指導内容に温度差があることが少なからず問題だった。解決策として昨年度初めて「じぶん未来講演」を導入した。

「じぶん未来講演」とは『じぶん未来BOOK』の使用に併せてリクルートのスタッフが行う講演。進路の決め方、企業が求める人材像などがわかり、将来のために今できることを前向きに

考えてもらう内容になっている。「講演によってやる気が高まれば『じぶん未来BOOK』の効果も高まる」と思いました」という進路指導部長の堤知之先生。

この取り組みは2011年12月に「チャレンジ講座」の2時間を使って行われた。まず全員で講演を聞き、その後クラスごとに「じぶん未来BOOK」を使ったワークシートに取り組んだ。講演の冒頭にあった、「世の中には28000種以上の仕事があり、職種を知るほど、選択肢が広がる」という話は生徒に強い印象を残したという。終了後のアンケートでも、「そんなに多いとは驚いた」、「子どもにかかわれる仕事は保育士のほかにもたくさんあるのだから、もっと調べたい」など、この話によって進路の可能性の広がりを感じたことが多くある。

堤先生が特に印象深かったのは、進路を決める方法は、明確な目標に向けて計画的に取り組む「山登り型」と、目の前のことに懸命に取り組む自分型に合った目標を発見する「いかだ下り型」の2パターンがあるという話だった。「生徒は山登り型だけが進路決定のルートだと思いがちです。まったく逆のル

ートがある」と知ったのは大きな発見。目標が決まっていなかった生徒のモチベーションもあがったと思います」。

1年でも早すぎないと確信し  
進路学習の早期化に着手

この取り組みが終わった後、十数人の生徒が進路指導室に相談に訪れた。「今回の講演は、将来の目標が決まっていないうちに生徒は何かを始めようと考え、目標が決まっている生徒はそれに向けて何をすべきか考えるきっかけになったと感じています」と堤先生。

昨年度まで、仕事調べ、学校見学のど本格的な進路学習は2・3学年の「総合的な学習の時間」で実施していた。1学年は学校への定着に重点がおかれ、そちらを優先する雰囲気学校全体にあったという。

しかし、今回の取り組みで「進路を真剣に考える気持ち」が前向きに学校生活を過ごす気持ちにつながると確信した堤先生は、今年度から進路学習の早期化に着手。今年初めて1学年の4月に適職・適学診断「RCAP」を行い、1学期から職業観育成を中心に進路学習を始めている。

リクルートサービスを活用した指導実践例

『じぶん未来講演』を聞いて

「今すぐ進路のために動き出そう！」  
と考え勉強や志望校調べを始める  
きっかけになりました



普通科2学年  
ぼうがき  
坊垣聡美さん

昨年12月に講演を聞いて、それまでほとんど考えていなかった進路のことを、今すぐ考えなければいけないんだと、強く思いました。私はバスケットボール部の高知県大会優勝を目指し、兵庫県の実家を離れ寮生活を送っています。当然部活は頑張りたいですが、卒業したら地元の大学で経営を勉強したいと漠然と思っていました。講演後、信頼する父に電話で相談すると、「基礎学力の定着のためにもセンター試験を受ける準備をしては？」とアドバイスされました。勉強法などを先生に聞いたところ、すぐにセンター試験対策の個別指導をすとおっしゃってくださいました。

現在は、定期的に課題を提出して添削指導を受けています。進学先についても少しずつ検討を進め、学部・学科の違いを調べたり、自分に合う学校をあれこれイメージしています。『じぶん未来BOOK』は部屋に置いてあって、ときどき読み返しています。「自分の道を決めるのは自分」など、グッとくる言葉がたくさんあって、励まされるんです。将来のためにできることをコツコツと続けているので、不安はないですね。講演をきっかけに早めに動き出したことは本当に良かったと思っています。



理事長(左)  
近森正久氏  
進路指導部部長(右)  
堤知之先生

「あいさつはもちろん、状況に応じた会話も身につけてはくなくて、毎日校内で生徒に声をかけています(近森氏)。「生徒の本音を引き出すこと、生徒が自分で考え行動するために役立つ声をかけることを心がけています(堤先生)」